

(表1) 卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌の手術進行期分類(日産婦2014, FIGO 2014)

	TNM 分類 (第 8 版) との対応
I 期：卵巣あるいは卵管内限局発育。	
I A 期：腫瘍が一侧の卵巣（被膜破綻がない）あるいは卵管に限局し，被膜への浸潤が認められないもの。腹水または洗浄液の細胞診にて悪性細胞の認められないもの。	T1a N0 M0
I B 期：腫瘍が両側の卵巣（被膜破綻がない）あるいは卵管に限局し，被膜への浸潤が認められないもの。腹水または洗浄液の細胞診にて悪性細胞の認められないもの。	T1b N0 M0
I C 期：腫瘍が一侧または両側の卵巣あるいは卵管に限局するが，以下のいずれかが認められるもの。	
I C1 期：手術操作による被膜破綻。	T1c1 N0 M0
I C2 期：自然被膜破綻あるいは被膜表面への浸潤。	T1c2 N0 M0
I C3 期：腹水または腹腔洗浄細胞診に悪性細胞が認められるもの。	T1c3 N0 M0
II 期：腫瘍が一侧または両側の卵巣あるいは卵管に存在し，さらに骨盤部腹腔内臓器への進展を認めるもの，あるいは原発腹膜癌。	
II A 期：進展ならびに/あるいは転移が子宮ならびに/あるいは卵巣に及ぶもの。	T2a N0 M0
II B 期：ほかの骨盤部腹腔内臓器に進展するもの。	T2b N0 M0
III 期：腫瘍が一侧または両側の卵巣あるいは卵管に存在する，あるいは原発性腹膜癌で，細胞学的あるいは組織学的に確認された骨盤外の腹膜播種ならびに/あるいは後腹膜リンパ節転移を認めるもの。	
III A1 期：後腹膜リンパ節転移陽性のみを認めるもの（細胞学的あるいは組織学的に確認）。	
III A1 (i) 期：転移巣最大 10mm 以下。	T1-2 N1 M0
III A1 (ii) 期：転移巣最大 10mm をこえる。	
III A2 期：後腹膜リンパ節転移の有無にかかわらず，骨盤外に顕微鏡的播種を認めるもの。	T3a N0-1 M0
III B 期：後腹膜リンパ節転移の有無にかかわらず，最大径 2cm 以下の腹腔内播種を認めるもの。	T3b N0-1 M0
III C 期：後腹膜リンパ節転移の有無にかかわらず，最大径 2cm をこえる腹腔内播種を認めるもの(実質転移を伴わない肝および脾の被膜への進展を含む)。	T3c N0-1 M0
IV 期：腹膜播種を除く遠隔転移	
IV A 期：胸水中に悪性細胞を認める。	T1-3 N0-1 M1a
IV B 期：実質転移ならびに腹腔外臓器（鼠径リンパ節ならびに腹腔外リンパ節転移を含む）に転移を認めるもの。	T1-3 N0-1 M1b